

6. 胸鎖関節に特異的な RI 集積をみた掌蹠膿疱症の一例

矢野 恵補 伊牟田久充 (熊本日赤・放)
 桑原 司 (同・皮)
 未満 弘之 (同・整外)

前胸部痛を訴える掌蹠膿疱症の患者に骨シンチを施行したところ胸鎖関節部、および両側第一胸肋関節部に著明な RI 集積を認めた。これは掌蹠膿疱症に合併する胸肋鎖骨関節部の炎症性変化のためと考えられる。

骨シンチにおいて胸肋鎖骨関節部に有意の RI 集積を認めた場合には掌蹠膿疱症も鑑別診断の一つとして考慮し、手掌および足蹠の膿疱等の検索を行ってみるほうが望ましいと考える。

7. 慢性関節リウマチにおける関節シンチグラフィの臨床的検討

島袋 国定 坂田 博道 篠原 慎治
 (鹿大・放)
 橋口 兼久 酒匂 崇 (同・整外)

慢性関節リウマチ (RA) 27例について $^{99m}\text{TcO}_4^-$ による関節シンチグラフィに関する検討を行なった。

1)臨床症状とシンチグラム所見との比較では、両者とも陽性の部位は31%、両者とも陰性の部位は50%で、一致率は81%であった。2)病期別では、stage I の症例でも陽性率が高く、早期発見に有用であると考えられた。3)CRP と RI の集積の程度との比較では、両者間に正相関がみられ、RA の活動性の評価に有用であると考えられた。4)集積曲線 T 1/2 の平均値は、正常例 2.0 分、non specific arthritis 3.6 分、RA 0.8 分で、正常例に比べ RA では早く、non specific arthritis では遅い傾向がみられた。

8. 結節性甲状腺腫における $^{99m}\text{TcO}_4^-$ および ^{201}Tl スキャンの評価

三宅 秀敏 相川 久幸 中島 彰久
 越智 誠 本保善一郎 (長大・放)

結節性甲状腺腫35例 (乳頭状腺癌 8 例、ろ胞状腺腫15 例、嚢腫 4 例、腺腫様甲状腺腺腫 6 例慢性甲状腺炎 2

例) の $^{99m}\text{TcO}_4^-$ および ^{201}Tl (5 分、2 時間) スキャンについて検討した。 $^{99m}\text{TcO}_4^-$ スキャンで陽性像 3 例 (ろ胞状腺腫、腺腫様甲状腺腺腫、慢性甲状腺炎各 1 例)、陰性像 32 例であった。嚢腫は $^{99m}\text{TcO}_4^-$ と ^{201}Tl スキャンではほぼ同じ大きさの陰性像を示した。 ^{201}Tl (5 分) スキャンおよび ^{201}Tl (2 時間) スキャンで著しい陽性像は、甲状腺癌、甲状腺腺腫でみられ両者を鑑別する指標となりえなかったのに対し、 ^{201}Tl (5 分) スキャンで陽性像を示し ^{201}Tl (2 時間) スキャンで陰性像を示すのは、甲状腺癌では稀れで、甲状腺腺腫や腺腫様甲状腺腺腫であったことより、甲状腺癌と甲状腺腺腫の鑑別に役立つと考える。

9. 原発性副甲状腺機能亢進症に対する RI 検査

一矢 有一 鴛海 良彦 鴨井 逸馬
 和田 誠 沼口 雄治 松浦 啓一
 (九大・放)
 佐々木 潔 (国立福岡中央・放)
 中川 英二 (国立小倉・放)

原発性副甲状腺機能亢進症 8 例の ^{75}Se -methionine および ^{201}Tl による副甲状腺シンチ所見と骨シンチ所見について検討した。副甲状腺病変は、7 例は手術で確認されており、大きさは 2~6 cm で、6 例は腺腫、1 例は癌腺であった。

^{75}Se による副甲状腺シンチでは 8 例中 5 例で検出でき、 ^{201}Tl では 3 例中全例で検出できた。また ^{201}Tl 陽性の 3 例のうち、 ^{75}Se 陽性例は 1 例であった。骨シンチは 7 例に行ない、そのうち 5 例で全身骨への集積増加と、褐色腫および病的骨折部への強い集積があった。骨 X 線検査では骨シンチ陽性の 5 例中 4 例では異常を認めたが 1 例では異常なかった。また骨シンチ陰性の 2 例では骨 X 線でも異常なかった。

以上の結果は、副甲状腺病変の検出には、 ^{201}Tl が ^{75}Se より優れており、また骨病変の検出は骨 X 線より骨シンチの方が早い可能性を示すものであった。